

平成 26 年 10 月 30 日

各 位

株式会社 東 和 銀 行

## 平成 27 年 3 月期第 2 四半期（4-9 月）及び通期の業績予想の 上方修正により、中間純利益は過去最高益を更新の見込み

預貸金残高が順調に増加したことなどから、コア業務純益が当初予想を上回る見込みとなりました。これに伴い経常利益及び中間純利益を当初予想より上方に修正するものであります。

### 【単体業績予想の修正】

(単位：百万円)

|            | 平成 27 年 3 月期<br>第 2 四半期（4-9 月） |       | 平成 27 年 3 月期<br>通期 |        |
|------------|--------------------------------|-------|--------------------|--------|
|            | 経常利益                           | 中間純利益 | 経常利益               | 当期純利益  |
| 前回発表予想（A）  | 4,000                          | 3,000 | 8,000              | 6,000  |
| 今回修正予想（B）  | 5,050                          | 6,400 | 9,000              | 10,000 |
| 増減額（B-A）   | 1,050                          | 3,400 | 1,000              | 4,000  |
| 増減率（B-A）÷A | 26.3                           | 113.3 | 12.5               | 66.7   |
| 前年同期（前期）実績 | 6,347                          | 3,866 | 11,976             | 12,672 |

### 1. 預貸金について

預金は、前年同期比 394 億円増加の 1 兆 8,106 億円、貸出金は、同 220 億円増加の 1 兆 3,109 億円となり、預金・貸出金とも好調に増加。

また、新規事業所開拓が順調で貸出先数は前年同期比 863 先増加し、13,107 先に達しました。

### 2. 中間純利益は過去最高益を更新見込み

こうした預貸金と事業性貸出先数の増加により、預貸金収支が前年と同水準となり、本業の収益力を示すコア業務純益が 51 億円となる見込みにより、平成 27 年 3 月期第 2 四半期（4-9 月）の経常利益及び中間純利益は当初予想を上回る見通しとなりました。

経常利益は当初予想比 26.3%増の 50.5 億円となる見込みであり、中間純利益は、本日の取締役会において、子会社である東和フェニックス株式会社を解散することを決議したことに伴う繰延税金資産の計上もあり、同 113.3%増の 64 億円と過去最高益となる見込みです。これに伴い平成 27 年 3 月期第 2 四半期（4-9 月）及び通期の業績予想をそれぞれ上方修正いたします。

以 上